

《読みの視点》花子さんのクラスで算数のテストがありました。しかしテストの前日、花子さんのお母さんが熱を出してしまいました。かん病や食事の用意をしていたため、テスト勉強ができませんでした。テストの前日、算数はいつもよい点数ですが、やはり不安な気持ちになってしまいました。実際に問題を解いても、最後の1問が、よくしても分からせせん。そんな時、じなりの席のよこ子さんの答案を、つい見てしまいます。そのため花子さんは、テストで100点を取るじゆいができました。でも全然うれしくありません。むしろはじめな気持ちになってしまいました。なぜ花子さんは100点を取れたのか、はじめな気持ちになったのか、考えながら読をひいたわさ。

○最近、正直にできなかつたじゆい(じまかしたじゆい)はありますか...自分自身をさらに返ってみますじゆい。

さしゆ。

じゆいじゆい。

なせゆ。

○ちじゆいわさの答案を思いつまったじゆい、花子さんはじゆいじゆいを考えたじゆいじゆいじゆいか。

だれにだって、弱い心に流れていく井のじゆいじゆいがあるわね。

自分自身の経験思い出しながら考えてみますじゆい。(思いついたじゆいを、たくさん書いてみますじゆい)

○テストがあった日、一日中すっきりしなごまま過じゆいしました。花子さんは、じゆいな気持ちだったじゆいじゆいか？

花子さんは、自分のとってしてしまったあやまちに対して、じゆいかいの気持ちをもったり、自分を責めてしまったりしたんだね。

みんなが正直にできなかつたときは、じゆいだったか思い出しながら考えてみますじゆい。

(思いついたじゆいを、たくさん書いてみますじゆい)

☆花子さんは、なぜ「こんなことは、二度としてはいけない。」と思ったのでしょうか。

だれにだって、こうかいしたり、自分を責めたりしたりした経験はあるはずですよ。失敗やあやまちをおかしてしまふことも、誰にだって起こりうるんですよ。大切なのは、いつまでもマイナスな気持ちをもち続けることはなくして、**正直な心をもってせうじつと明るく心を通じつていこうよ**です。(思いこいたことを、たぐやん書いてみよ)

・先生の語り

先生はみんなと同じ5年生ぐらいのころ、うそをついてこうかいしたことがあります。それはクラス友達とまったくたくさん遊びたくて、サッカーの練習をさぼったことです。でも友達が帰る時間に、同じように家に帰ったのでは、練習をさぼったことがばれてしまいます。またユニフォームもいつもと比べてよじれていません。だからすなをつけて、わざとよじりました。一人で公園にいても全然、楽しくありません。サッカーチームのみんなは何をしているのか不安な気持ちになったことを、よくおぼえています。あとから知ったのですが、先生が練習をさぼった日は、次の試合のレギュラーを決める紅白戦があったそうです。暗くなってきて、いつも家に帰る時間になり、家に帰ると先生のお母さんから「紅白戦どうだった？」と、聞かれました。「えっ」と思いましたが、声を出さないように必死でがまんしました。先生はお母さんの顔を見ることはできませんでした。そして試合当日、先生はベンチに座ったまま、最後まで試合に出ることはできませんでした。応援に来てくれるお父さん、お母さんに心の中で、何度も「ごめんなさい」と、試合中ずっとあやまっています。

だから試合結果もおぼえています。それどころか仲間が頑張っている姿も、見ていませんでした。帰る時「今日は試合に出られなくて、ざんねんだったね。次はゴール決めようね」と、優しく言われた言葉は、今でもおぼえています。お父さん、お母さんは、きっと今でも試合に出なかった理由は知りません。でも自分自身も、お父さんお母さんにも、二度とこんな思いはさせしてはいけないと、本気で思いました。

それから練習時間よりも早く行き、みんなよりもたくさん練習に取り組みました。今でもたまに実家に帰ると、当時の映像を子どもと一緒に見ることがあります。下手くそだなと思いますが、試合中にだれよりも走っているのを見て嬉しみます。だれにでもこうかいしてしまふ経験は必ずあります。でも、そのあとに、心を入れかえて、その分がんばることや、同じことを二度とするものかと思っただけ、しばらく続けることが大切なのだと思います。そういう気持ちをもてるように、いろいろな乗の越えられる力が身につけば、その時は苦しくても、あとでよいく気持ちの思い出になります。

© 2015 株式会社 日本出版行動 すべてがかったこと思い出してはあきらまふかっ。書いてみよ。

今までの正直な行動についてかかったこと

いまだかたがたの過去についてかかったこと